

# 感染症発生動向調査委員会報告 11月

## 今月のトピックス

感染性胃腸炎の報告が増えています。過去5年間で最大の流行だった2006年を凌ぐ立ち上がりです。今シーズンはすでに14件の集団感染の報告があり、10件からノロウイルスが検出されています。

病原体定点医療機関から、8月から11月の検体で分離されたインフルエンザは、8検体全てがA香港でした。

インフルエンザの集団感染の報告がありました。金沢区で市内初の施設閉鎖(学年閉鎖)があり、B型のワクチン株であるVictoriaのBrisbane類似が検出されています。泉区・都筑区でも集団感染が報告されています。

## 全数把握疾患

### < 腸管出血性大腸菌感染症 >

11月の報告数は24日現在で1件です。感染経路は不明です。

### < レジオネラ症 >

11月の報告数は24日現在で3件です。感染地は、現時点では不明です。レジオネラ症は、レジオネラ属菌の中でもレジオネラニューモフィラによることが多いです。本来土壌細菌ですが、冷却塔や給湯系等の人工環境にもアメーバを宿主として増殖しています。2005年以降、報告数が増加していますが、2004年にイムノクロマト法の尿中抗原検査が保険適用になり、2005年には市中肺炎診療ガイドライン(日本呼吸器学会)にレジオネラ検査が記載されたことが影響していると思われませんが、公衆浴場等での集団感染も国内では報告されています。浴槽水の換水や適切な塩素濃度の他に、レジオネラの温床となるバイオフィルム対策に清掃・消毒も必要です。市内の公衆浴場の検査結果についてはこちらを御覧ください。

横浜市衛生研究所 [検査情報月報](#) :

[http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection\\_inf/201003/pdf/yokujou.pdf](http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/201003/pdf/yokujou.pdf)

### < HIV 感染症 >

11月の報告数は24日現在で3件です。10月以前の追加報告は5件ありました。その8件は全て男性で、そのうち7件は同性間性的接触によるものでした。

全国では、平成21年に報告されたHIV感染症は1,452件で、そのうちAIDSを発症していたのは431件(30%)でした。HIV感染者の国籍・性別をみると、日本国籍の男性が1,280件で88%を占め、そのうち864件(68%)が同性間性的接触によるものでした。

横浜市では、今年に入って45件、HIV感染症の報告があり、そのうちAIDSを発症していたのは13件(29%)でした。男性が41件(91%)で女性が4件(9%)でした。19件(42%)が30歳代で、40歳代が10件、20歳代が8件、50歳代が5件、60歳代が3件でした。HIV感染症は、治療法が進歩しているとはいえ、体内から完全にウイルスを排除することが難しい慢性の感染症です。一番の対策は感染防止ですが、早い時期の感染確認によって、適切な治療と、パートナーへの感染防止が可能になります。機会を捉えた検診勧奨が必要です。HIV感染症についてはこちらを御覧ください。

国立感染症研究所 HIV/AIDS 2009年 <http://idsc.nih.gov/iasr/31/366/tpc366-j.html>

横浜市衛生研究所「HIV感染症について」

<http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/idsc/disease/hiv.html>

## 定点把握疾患

### 1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:91か所、内科定点:59か所、眼科定点:18か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計197か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計150定点から報告されます。

平成22年10月18日から11月21日まで(平成22年第42週から第46週まで。ただし、性感染症については平成22年10月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

#### <インフルエンザ>

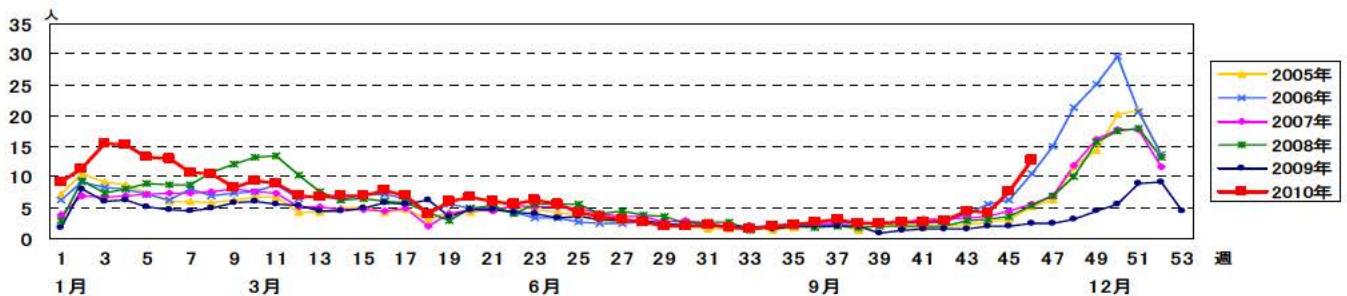
第46週では横浜市の定点あたりの報告数は0.57でした。行政区別では、流行のめやすである定点あたり1を超えた、瀬谷区2.43、金沢区2.25、泉区1.71が高めです。神奈川県域(横浜、川崎、相模原を除く:以下県域)では0.42、東京都0.51、全国0.35です。

集団感染としては、金沢区で市内初施設閉鎖(学年閉鎖)がありました。B型 Victoria のBrisbane類似が検出されています。泉区ではインフルエンザによる全園閉鎖がありました。

都筑区でも学級閉鎖が見られています。型については検査中です。

#### <感染性胃腸炎>

第46週では市内定点あたりは12.83でした。行政区別では、旭区31.00、瀬谷区20.50、神奈川区19.50が高めです。県域12.44、東京都12.91、全国10.64でした。市内では集団感染の報告が14件あり、うち10件からウイルスが検出されていて、すべてがノロウイルスGⅡによるものでした。



#### <水痘>

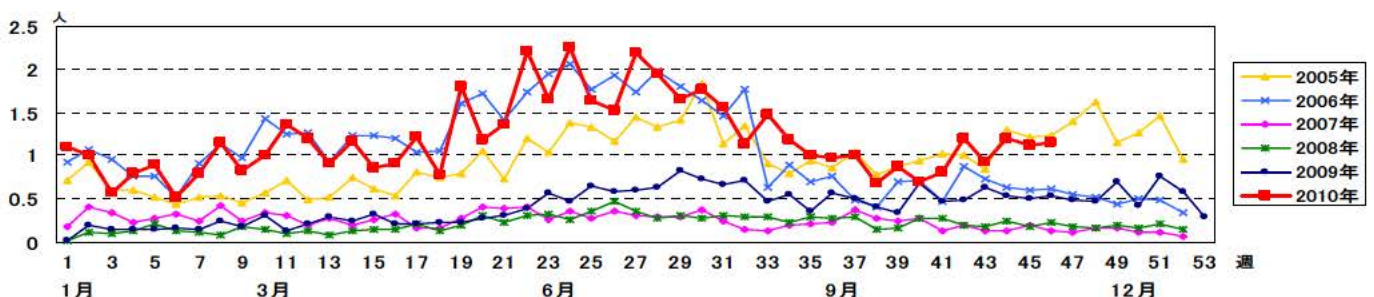
第46週では市内定点あたりは1.38でした。行政区別では保土ヶ谷区が6.50と注意報域です。県域1.17、東京都0.95、全国1.4でした。

#### <百日咳>

第46週では市内定点あたり0.04でした。中区で2件、青葉区で1件の報告です。何れも20歳以上です。

#### <流行性耳下腺炎>

第46週では市内定点あたり1.15でした。行政区別では港南区2.75、神奈川区2.00が高めです。県域1.28、東京都0.48、全国1.16です。



### < 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系の 10 定点、および泌尿器科・皮膚科系の 17 定点からの報告に基づき、1 か月単位で集計されています。

10 月は、性器クラミジアは男性 25 例、女性 15 例、性器ヘルペスウイルス感染症は男性 8 例、女性 11 例でした。尖圭コンジローマは、男性 8 例、女性 3 例、淋菌感染症は、男性 11 例、女性 2 例でした。

【 感染症・疫学情報課 】

### 2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### < ウイルス検査 >

11 月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点 54 件(鼻咽頭ぬぐい液 51 件、ふん便 1 件、嘔吐物 1 件、直腸ぬぐい液 1 件)、眼科定点 2 件(眼脂)、基幹定点 1 件(髄液)でした。患者の臨床診断名別内訳は、小児科定点は上気道炎 18 人、下気道炎 18 人、インフルエンザ(疑いを含む)6 人、流行性耳下腺炎 4 人、RSV 感染症 3 人、胃腸炎 3 人、ヘルパンギーナ 1 人、りんご病 1 人、また、眼科定点の 2 人は流行性角結膜炎、基幹定点の 1 人は脳炎でした。

12 月 1 日現在、小児科定点の上気道炎患者とインフルエンザ患者各 1 人からインフルエンザウイルス AH3 型、下気道炎患者 2 人と RS ウイルス感染症患者 1 人から RS ウイルス、上気道炎患者 1 人からアデノウイルス(型未同定)、流行性耳下腺炎患者 1 人からムンプスウイルスが分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の下気道炎患者 4 人、RS ウイルス感染症患者 1 人、インフルエンザ(疑い)患者 1 人から RS ウイルス、上気道炎患者 4 人と下気道炎患者 1 人からライノウイルス、胃腸炎患者 3 人からノロウイルス G2 型、上気道炎患者 1 人からヒトコロナウイルス OC43 型、りんご病患者からヒトパルボウイルス B19 型、ヘルパンギーナ患者からコクサッキーウイルス A5 型、基幹定点の脳炎患者からヒトヘルペスウイルス 6 型の遺伝子が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【検査研究課 ウイルス担当】

### < 細菌検査 >

11 月の感染性胃腸炎関係の受付は小児科定点からの検体が 2 件で 1 件から黄色ブドウ球菌(エンテロトキシン A 産生)が検出されました(表)。

基幹定点からは菌株受付が 4 件、定点以外の医療機関からは菌株が 3 件でした。そのうち、基幹定点から、腸管血清型大腸菌が 1 件(O18:H7)検出されました。

定点以外の医療機関からは腸管出血性大腸菌 2 件(O157:H7, VT1&2, O26:H111, VT1&VT2)、*Salmonella* Thompson が 1 件検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点からの 11 件で、A 群溶血性レンサ球菌が 8 件から検出されました。その血清型は T12、T28 でした。

表 感染症発生動向調査による病原体調査(11月) 細菌検査

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	11月			2010年1～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌					4	5
腸管病原性大腸菌		1			9	
腸管出血性大腸菌			2		4	54
腸管毒素原性大腸菌				1	3	
チフス菌						1
パラチフスA菌					1	1
サルモネラ			1	2		2
カンピロバクター				1		
黄色ブドウ球菌	1			1		
不検出	1	3	0	15	59	1

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	11月			2010年1～11月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌				25	1	1
T1						
T4				3		
T6				1		
T12	2			7		
T13				1		1
T25				2		
T28	6			15		
T B3264				2		
型別不能				4		
G群溶血性レンサ球菌				1		
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					2	
バンコマイシン耐性腸球菌						3
髄膜炎菌						1
Streptococcus suis						1
Corynebacterium ulcerans					1	
不検出	3			29		10

\* 定点以外医療機関(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[検査研究課 細菌担当]